

商都として栄えた
小川町の街並みも
観光資源です。

田中照子が問う



観光のまちづくりで定住促進を

Q 観光客誘導を目的に日本遺産への申請、小川町景観計画の作成、また、このようなことに関係する取り組みは。

A 都市政策課長 景観の取り組みとしては、県が進めている「歴史の道広域景観形成プロジェクト」に、景観モデル地区として応募しており、選定・公表は7月です。

Q 移住サポートセンターが開設された。今後の展開と2年後の委託事業終了後の取り組みは。

A にぎわい創出課長 今年度は、センターの周知と状況把握に努め、委託終了後は実績確認・改善点などを整理し、事業展開についての検討を行ないます。

さらなる子育て支援の充実を

Q 「乳児家庭全戸訪問事業」の平成27年度の実績と支援内容は。

A 健康福祉課長 訪問件数は151件。体重測定・発育発達の確認のほか、うつ病質問票を用いたアンケート・保健事業の説明・子育て支援センターの説明等を行なっています。

Q 事業計画にある「他の子育て支援関連サービスとの複合化を検討」とは、子育て支援課長 日本版「ネウボラ6」の方向性です。



ママパパ教室の学習を活かし、育児に奮闘。

全国の創生がスタート、勝負はこれからだ。

山口勝士が問う



創生に向けた町の魅力発信は

Q 各市町村との競争の中で、にぎわい創出や戦略の基本は「大都市からわずかな時間で訪問、手ごろな観光体験・自然体験」と考える。今後の展開は。

A 政策推進課長 伝統工芸会館で手ずき体験をした方の数は、ユネスコ登録の平成26年度と比べて、平成27年度1万7346人と約4500人増加しています
①8つのハイキングルート ②町中エリア散策ルートの新設 ③「輪行5」など、目的に沿ったサービスやおもてなし ④「米づくりから酒造りを楽しむ会」の充実

⑤花情報の町ホームページでの発信など、町観光協会と連携して、町の活性化・観光の充実に努めていきます。

住民参加の仕組みづくりを

Q 住民とつくる町、その具体的な制度、システムの構築として、愛知県新城市の取り組みは。

A 政策推進課長 提案の「地域住民が自分たちで企画立案した意見を直接行政に反映させる取り組み」については、大変興味深いものと考えます。一方、行政が主導的な立場をとるのではなく、地域住民みずから自分たちの問題に対して協議し解決するシステムについては、重要な視点であることは間違いありません。今後住民の方々の声に耳を傾けていきます。



新しくつくられていく多くの町の計画どう展開するの。

変化を求めない者に進歩なし。恐れず進もう。

島崎隆夫が問う



ふるさとを想う気持ちの醸成を

Q ①町の花の変更を考えたことは。また、複数指定の可能性は。町発祥の孔雀草や和紙に関係深いトロロアオイの花を指定しては ②トロロアオイを使って健康を意識した新郷土料理を考えては。

A 政策推進課長 ①変更を考えたことはありません。複数指定は可能だと考えます。今後、機会を考慮して検討していきます ②商工会や農協等の意見を聞き、考えてみたいと思います。

Q ①成人式は新成人の代表が企画を決めている。非常によいことである。

同時に、町が記念樹を植えて祝い、木の成長を広報・ホームページで発信する。また10年ごとに「記念樹を見る会」を開くことで、町を見直す機会をつくっては ②槻川沿いの遊歩道の完成は、とてもよいことである。兜川や市野川の整備も県へ要望し、同時に町が成人式記念で植樹しては ③ため池の保全と親水空間の創出、並びに谷津などの不耕作地解消に向けた対策として、記念樹事業やトロロアオイの栽培を町全体で取り組んでは。

A 総務課長ほか ①実行委員会に提案します。また、観賞会については研究していきます ②河川流域住民の状況を確認し、要望等をしていきたいと考えます ③農業・農村を守るため、国の制度も活用し豊かな地域づくりを目指します。



ご成人、おめでとう。

Mini Column
オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考えよう
「小川のどこが好き？」

解説 ネウボラ 6

北欧フィンランドで生まれた制度。妊娠から子どもが就学するまで、子育てのさまざまな支援を一つの窓口で提供すること。

解説 輪行 5

自転車を専用の袋に入れて、公共交通機関（鉄道・船・飛行機など）を利用して移動すること。

解説 歴史の道広域景観形成プロジェクト 4

旧街道・旧宿場町・城下町などの歴史的な資源を発掘し、保全・活用する県の計画。

桜の時期に必ず行く忠霊塔。



(T・Tさん・60歳代)